

岩手県 軽米町議会

議会だより

かるまい

No. 243

令和7年11月12日発行

主な内容

👉 特集

県立高校再編計画

2

議員定数条例の改正

6

📄 9月定例会 9月定例会採決結果

14

📄 9月定例会 一般質問に6人登壇

15

📄 インタビュー 「かるまい町に住んでみて」

24

今回の表紙は

ピヨピヨ広場

令和5年12月にオープンしたかるまい文化交流センター（宇漢米館）、1階 子育て広場内 軽米町子育て支援ひろば（ピヨピヨ広場）では、毎月様々なイベントが開催されています。イベント時だけでなく、日常的にも利用する親子は、笑顔があふれ、楽しそうに交流しています。

特集① 県立高校再編計画

軽米高校は2学級が1学級に減 4年連続で定員40人を割る

岩手県教育委員会は、次期県立高校再編計画（当初案）（2026～35年度）を公表し、軽米高校は来年度から2学級が1学級減の、1学年1学級（定員40人）となります。県立高校の学級編成は、志願者が1学級定員（40人）以上の欠員を生じた場合には、学級減を検討するという基準を設けています。

軽米高校への入学者数は、定員80人に対し令和4年が38人、5年が37人、6年が35人、7年が31人と、4年連続で40人以上の欠員が生じていました。県教委は、地域検討会議や意見交換会等を開催し、来年4月までの計画決定を目指しています。

軽米中学校から軽米高校への入学率推移

軽米高校への入学年度	平成28年	29年	30年	31年	令和2年	3年	4年	5年	6年	7年
軽米高校入学者数（人）	46	39	42	44	42	44	34	34	27	30
軽米町中学校卒業生数（人）	69	76	64	74	63	67	68	64	50	64
軽米高校への入学率（％）	66.7	51.3	65.6	59.5	66.7	65.7	50.0	53.1	54.0	46.9

軽米高校校是

風雪に耐え
大いなる未来を拓かん

厳しい現状に向きあっても、自分の志を決してあきらめことなく、未来を切り開く強い意志を持つ人間の育成を目指す。

生活信条〔軽高三本柱〕

「時間の厳守」
「挨拶の励行」
「掃除の徹底」

軽米高校の生活の根幹として代々受け継がれています。

どうなる中高一貫教育

町では、平成13年度から軽米地域連携型中高一貫教育を導入し、町内中学校と軽米高校との中高6年間を通じた系統的・継続的指導を実施し、生徒の個性の伸長、学力の向上を図っています。また、中高を通じて地域との連携を深め、

生徒の郷土に対する理解を図り、地域の発展に貢献する能力と態度を養うこととしており、これまで実績を重ねながら、多くの成果を上げてきています。しかし、一方で、町民の方から「中高一貫教育の中身がよくわからない」といった声を

聞いたり、中高一貫教育に伴い軽米中学校と軽米高校間で実施されてきた高校入試（連携型入試）についても、1学級40人定員となった場合、仮に軽米中学校から40人以上の生徒が受験した場合の受け入れなど、検討が必要な点が出てきたりと、

課題について整理していくことが必要です。今後、軽米高校の魅力をさらに高めその良さを理解してもらうためにも、高校再編計画の中での中高一貫教育のあり方について、考えていくことが求められています。

軽米高校の存続に 1千万円超の支援

町では、軽米高校の教育活動を充実させるため、継続した支援を行っています。

副食給食の提供及び給食費半額助成や月2万円を上限として利用したバス運賃の助成、中学校スクールバ

スへの混乗、近隣市町村からの通学用タクシーの手配、町外からの下宿者に対する支援として下宿費用月3万円、親戚宅には月1万5千円を上限に支援のほか、7年度からは新たに制服一式の購

入を助成しています。年間における補助金は、令和5年度決算で約1200万円、6年度決算で約1400万円、7年度予算では1500万円余と、他市町村では見られないような1千万円を超える支援を行い、軽米高校の存続、2学級確保に全力を注いでいます。

全職員で個別に 手厚い指導を

軽米高校の魅力、特色は、県内でも先進的な取り組みであるコース別学習です。

進学コース、就職コースに分かれての力リキラムで、県内では軽米方式として他の小規模校の模範となっており、数多くの実績を積み上げています。

軽米高校では、「進路も多様化しているので、一斉指導では対応できないため、全職員で個別に手厚い指導をしているので、これはアピールポイントとなるが、実際は中学生にうまく伝わっていないようである。中学生の意見を聞くと、勉強でも部活動でも同じ志を持った人が多いところで高校生活を送りたいと言っている人がいる。志願者数を増やしたい気持ちはあるが、マイナスな状況から抜け出せなくて、模索している状況である」と話しています。

軽米高校の魅力を発信しています！
詳しくはこちらから⇒



軽米高校 PR用ポスター

軽米中学校卒業生の
主な進路状況（令和7年3月）

軽米高校	30人
二戸管内の高校	11人
その他県内の高校 （盛岡第一高校他）	7人
八戸市内の高校 （八戸高校他）	6人
県外の高校	4人

令和7年度小中学校・高等学校一覧＜軽米町＞（R7.5.1現在） 単位：人

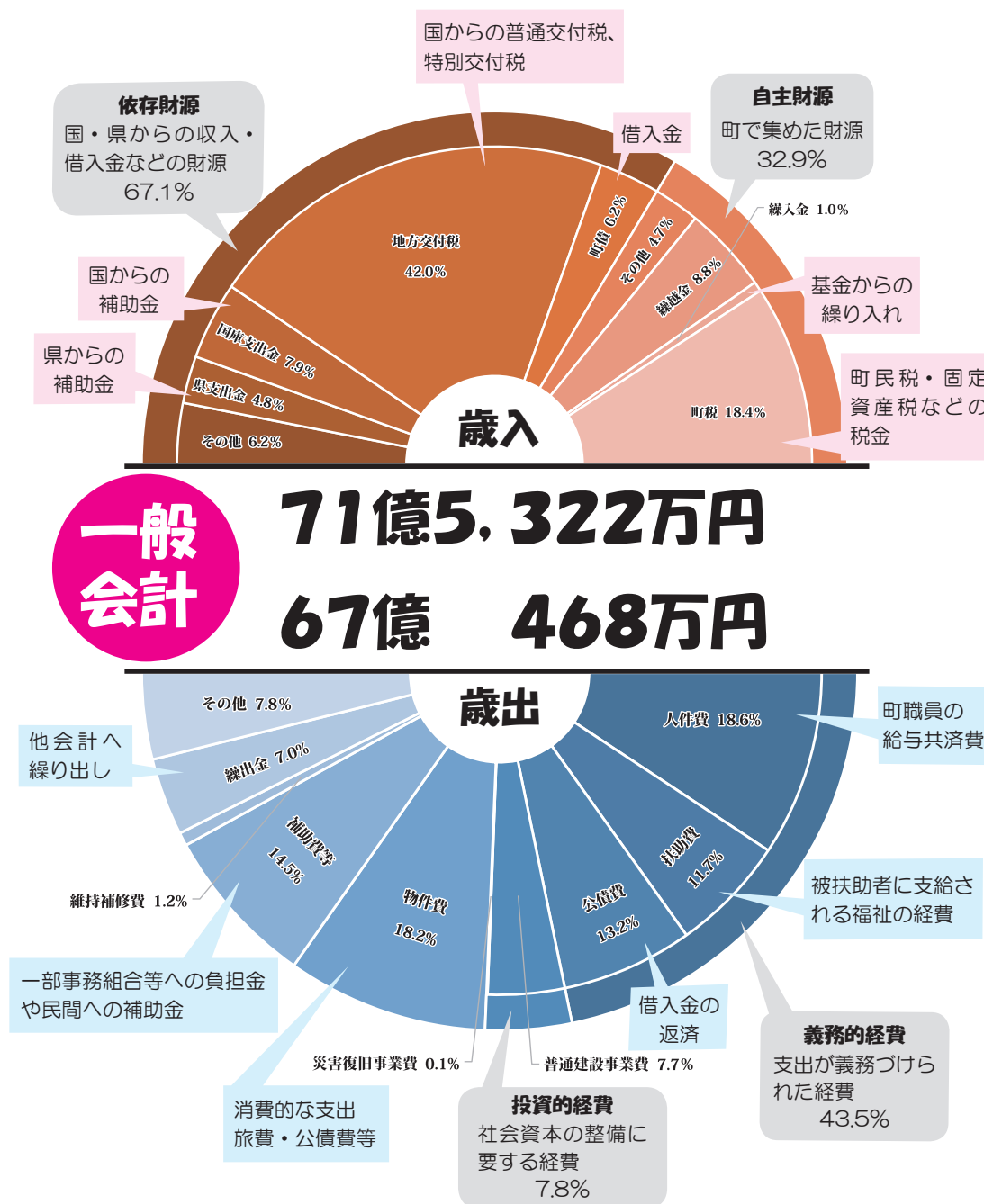
	児童生徒数								学級数	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	通常	特支
小学校	40	40	39	38	45	48	13	263	16	7
中学校	52	51	58				6	167	6	3
高校	31	33	36					100	6	

（※特支：特別支援学級）

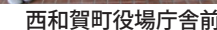
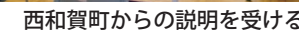
9月（第18回）定例会が、9月1日から12日までの12日間の会期で開かれ、令和6年度一般・特別、水道・下水道事業会計の決算の議案6件を認定したほか、教育長、教育委員任命への同意や一般、水道・下水道事業会計の補正予算3件、条例改正1件、財産の譲渡1件、財産の取得1件の議案6件について可決し、発議案の意見書1件、議員定数の条例改正1件についても可決しました。

認定
可決

令和6年度一般ほか全会計決算
議員定数を12人から10人へ削減



町外入学者増



総務教育民生常任委員（本田秀一委員長）は、7月28日に、今年度1学級増となった西和賀町の取り組みを視察しました。

西和賀高校は、習熟度に合わせた少人数の授業や県外の生徒を受け入れる「いわて留学」などにより、力を入れ、町外からの志願者が増えて昨年度、定員40人を上回る44人が入学しました。

このため、岩手県教育委員会は、今年度の1年生の定員を2学級80人に増やす異例の措置を取りました。



西和賀町と西和賀高校は、10年以上前から行政・議会・学校・地域が協議し、高校魅力化を推進。高校の考えを聴取し、町教委（町）の考えを共有して、公営塾・探究・学生寮・様々な取り組みを取り入れ、その結果、令和7年度入試から定員が80人へ倍増。県立高校での定員増は過去20年で初めてとの事で、教育長の考えに感動した。



西和賀町では専門コーディネーター配置や探究学習・創造塾の充実、検定料補助(検定料は何度でも助成)や公営塾での無料学習支援に加え、通学費や寮費助成など生活面でも多面的かつ手厚い支援を行っている。教育委員会と学務課を通じ学ぶことができ、軽米町としても高校との連携をさらに強化していきたいと思った。



西和賀高校は、住民、行政、町議会が一体となって魅力ある学校づくりに取り組み、その結果、募集定員が倍増になったという。これから先、多くの生徒に西和賀高校を選んでもらうための努力が必要になってくる。今回の研修を通して、小規模校には、小規模校の良さがあると学んだ。町ぐるみで良さを発信していくことが大切である。

「茶屋降委員」

〔田中 祐典委員〕

〔田村 さつ副委員長〕

支援体制の見直し急務

ついに軽米高校も1学級減の定員40人となる。このことは、4年連続で定員割れし、今後も回復の見込みがないという県教委の判断で、管理運営規則に基づくものとのこと。

町からの軽米高校への支援は、県内どこにも負けていない。

軽米中からの入学者減をどのようにとらえて、町の支援体制の見直しが急務ではないか。

次期県立高校再編計画を検討するにあたり、県による地域の代表者等との地域検討会議での当町関係者の主な意見を紹介します。

「1学年2学級維持は重要であり、教員数や部活動等、教育環境などに影響がある」「1

学級定員を40人から35人に検討いたいただきたい」「高校生は、様々なイベント等に積極的に参加しており、町の活性化に貢献している。高校まで地元で生活すると、その土地に愛着もわき、定着率も高まる」など。

地域検討会議での意見

岩手県内町村議会の比較

(令和6年7月1日現在)

町村名	人口(人)	議員定数(人)	議員報酬(円)
紫波町	32,730	18	300,000
矢巾町	26,157	18	240,000
一戸町	10,755	14	240,000
岩手町	11,678	14	239,000
雫石町	15,145	16	238,000
山田町	13,990	14	216,000
大槌町	10,564	12	216,000
金ヶ崎町	15,100	16	212,000
洋野町	14,887	16	211,000
葛巻町	5,349	10	211,000
岩泉町	7,929	14	210,000
平泉町	6,775	12	203,000
住田町	4,708	12	196,000
軽米町	7,987	12	195,000
西和賀町	4,754	12	191,000
田野畑村	2,910	10	170,100
普代村	2,319	10	170,000
野田村	3,921	10	169,000
九戸村	5,145	12	165,000



報酬25万円以上に

町議会は、低額な議員報酬の引き上げを山本町長に要望しました。

町の議員報酬は、22年前の平成15年に20万5千円でしたが町行政改革大綱により幾度の減額改定を実施し、19年に現行の19万5千円となりました。

委員会では、若い人

や女性など、幅広い層の方々が参画できるように報酬を月額25万円以上に引き上げることと決定し町に要望しました。

最終本会議の後、議長は報酬等の引き上げを要望しました



最終本会議の後、議長は報酬等の引き上げを要望しました

議員自ら厳しい環境に

議会改革調査特別委員会は、紫波町議会への視察、農業委員や農業・商工団体等との意見交換を重ね、多くの方々から厳しい意見をいただきました。

議員のなり手不足解消のハードルや環境が

あまりにも厳しすぎ、「今の仕事との両立が難しい」「議員報酬が低すぎるため生活できない」「選挙にお金がかかる印象がある」「特に若い世代や女性からの議会参画は理想で現実とはほとんど無理」などの意見が出されました。

委員会では、町民の意見を踏まえ、報酬の見直しと、議員自ら厳しい環境に身を置き、定数減を行うと結論付けました。

特集② 議員定数条例の改正

次期選挙から議員10人に

議員定数条例の一部改正を



9月定例会最終本会議で、議員定数を12人から2減の10人とする条例改正案を賛成多数で可決しました。令和9年4月に予定される次期町議会議員選挙から適用されます。

定数削減は、14人から12人の2減となった令和元年5月の改正以来です。

町議会は、令和5年6月議会で、議会改革調査特別委員会（細谷地多門委員長、議長を除く11人）を設置し、議会改革に関し、幹事会を13回、本委員会を14回開催し、調査・検討を進めてきました。

議員のなり手不足が深刻化しており、最終的に議員定数と報酬を重点項目に取り上げ、定数減と報酬の引き上げを要望することで結論付けました。

表決一覧（賛成：○、反対：×、欠席：欠）

議員名	田中祐典	甲斐鉦康	上山誠	西館徳松	江刺家静子	中村正志	田村せつ	茶屋隆	大村税	細谷地多門	本田秀一	松浦満雄	賛成	反対	結果
議案名	○	○	○	○	×	○	○	○	欠	○	×	○	8	2	可決
発議案②軽米町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例（定数を2人減とし10人とする改正案）															

(※) 議長は通常、採決にはくわらない。

チーム議会の意見を町政へ

議員削減は、町民個々の声が届かなくなるというが、これからの時代は、各議員が住民の声を共有し、議論を戦わせながら、チーム議会としての意見を町政に反映し、議会の活性化を目指すべきだ。

中村正志議員

社会情勢の変化に対応した議員定数

概ね人口750人程度に一人の議員定数で議会運営を行ってきた。削減案のとおり、定数を2人減らし10人とした場合、議員一人当たりの人口が774人となる。人口減少の推移から見ても妥当な削減数であると思われる。

茶屋隆議員



〔発議案第2号〕

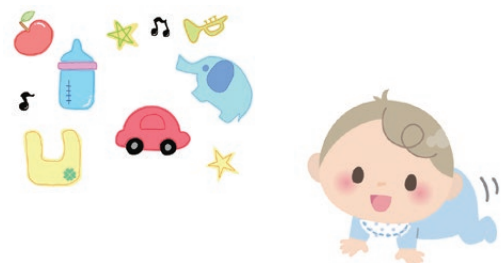
軽米町議会の議員の定数を定める条例の一部改正

多様な意見を生かすべき

地方分権改革が進むなか議員の役割と責任が大きくなっている。人口減少や高齢化の時代に向け、多様な意見を生かしていく議会にすべきであり、議員のなり手不足を定数削減と報酬引き上げに求めることに反対である。

江刺家静子議員

子育て・福祉



《すこやかベビー祝金》 150万円

第1子	15人	3万円の商品券
第2子	13人	5万円の商品券
第3子	4人	商品券・現金各5万円
第4子以降	0人	商品券・現金各10万円

支給対象者は、出生した子を養育する方で、軽米町に1年以上住所を有している方です。

※住民登録後1年に満たない場合は、1年以上居住する意思がある方

6年度は31人生まれました

5年度より13人増えました

《さわやかカップル祝金》



100万円

10組のカップル 商品券・現金各5万円
(5年度は6組で、4組の増となりました)

支給対象者は、夫婦ともに軽米町に住所を有し、婚姻後1年以上軽米町に居住する意志がある方です。

《高齢者長寿祝金》



408万円

100歳到達者	9人(+3人)	20万円
90歳到達者	76人(+22人)	3万円
※()内は5年度比		

ぎかいの視点

出生者数増にさらなる支援を

少子化が止まらない中、出生数が増えた。喜ばしいところである。

第1子は、何かと物入りである。祝金のアップも期待する。

町では、高齢者が安心して暮らしていく為様々な福祉事業の推進に取り組んでいる。中でも、今年度は移動支援に力を入れていくという。移動手段のない高齢者は助かるのではないだろうか。

《保育園の遊具、エアコンの整備》

4,845万円

・花のまち軽米こども園遊具整備	2,505万円
・小軽米保育園遊具整備	1,075万円
・花のまち軽米こども園エアコン設置	1,265万円



花のまち軽米こども園

令和6年度 一般会計決算の認定

かるまい文化交流センター(宇漢米館)

オープニングイベントに町内外から5,715人



かるまい文化交流センター宇漢米館

○オープニング記念イベント

442万円

《主なイベント》()内は来場者数

- ・映画上映会「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」(369人)
- ・第1回軽米のど自慢大会(330人)
- ・出張!なんでも鑑定団in軽米(330人)
- ・軽米町 Sweets Festa!(1,000人)
- ・米国空軍太平洋音楽隊パシフィック・トレンズコンサート(326人)
- ・陸上自衛隊第9音楽隊コンサート(375人) など



宇漢米館でのイベントの様子

ぎかいの視点

宇漢米館のイベントへの参加を

6年度は、各団体の事業、イベント等が開催され、予想以上の多くの方が利用した。今後も、行政・町民・各団体が連携して取り組み、継続が必要。そのためには、地域おこし協力隊、地域おこし専門員の協力、活躍が大切ではないでしょうか。

そして、宇漢米館を利用する人のためには「いまるカフェ」のオープンには重要な役割を果たしていると思う。

町民の皆さん、宇漢米館のイベントにこぞって参加しましょう!

○施設管理運営費 6,346万円

・各種保守点検業務委託料	1,863万円
・人件費等(会計年度任用職員分)	2,243万円
・光熱水費	1,417万円 他

○軽米町文化協会開館記念事業補助金

773万円

()内は来場者数

- ・伊藤多喜雄 & TAKIO BAND コンサート(188人)
- ・わらび座ミュージカル「青春(アオハル)するべ!」(163人)
- ・新沼謙治コンサート(2回公演)(669人)
- ・町民劇「一月のほたる」(269人)
- ・4回の映画上映会(65人、184人、143人、122人)



商工・観光

賑わい創出に、創意工夫を
《軽米町商工会への補助金》

1,712万円

- ・商工会活動費 515万円
- ・地域活性化（夏祭り） 130万円
- ・プレミアム付き商品券 670万円
- ・かるまいブランド販売促進支援 110万円
- ・中心商店街賑わい創出（青年部・女性部） 87万円
- ・商工会活性化事業費 200万円

商工会青年部では、料理教室の初開催や、雨天中止となった夏祭り花火大会を冬灯りと同時開催。中心商店街の賑わい創出のため、創意工夫された事業が展開されました。

商品券発行は、コロナ前と同様にプレミアム10%とし、町内消費の喚起に努めました。

ぎかいの視点

観光施設の指定管理に？

チューリップフェスティバルは、2万3千人余の観光客で賑わっている。

しかし、フォリストパークはチューリップイベントだけで、また、ミレットパークでのイベントはゼロの状況である。

観光協会だけに頼るのではなく、指定管理を受けている団体でのイベント企画を指導すべきではないか。

そして、若い人や子どもたちが安心して利用できるトイレ改修が急務である。

チューリップ園に17,642人来場
《軽米町観光協会イベント等補助金》



1,103万円

- ・森と水とチューリップフェスティバル
- ・軽米秋まつり
- ・食フェスタ in かるまい
- ・かるまい冬灯り点灯式
- ・観光と物産キャンペーン



交流人口の増大と観光振興を目的に、コロナ前の通常開催のイベントが行うことができました。

※チューリップ園入場者 17,642人
入場料 664万円

※山車団支援 20万円×6団体＝120万円

アイス、ポップコーンの開発

《さるなし振興事業》 162万円

さるなしの生産振興及びさるなしを活用した「さるなしアイス」と「さるなしポップコーン」の商品開発に取り組みました。



《観光施設の指定管理》

3,254万円

- ・ミル・みるハウス 1,000万円
- ・ミレットパーク 717万円
- ・雪谷川ダムフォリストパーク・軽米 870万円
- ・物産交流館 667万円

農・林・畜産振興

農地の集積・集約化、生産の効率化
《経営体育成支援（融資主体）》

670万円

- ・1経営体 野菜集出荷施設 1棟
- 人・農地プランに位置付けられた中心経営体が融資を受けて導入する施設設置費の一部を補助し、農地の集積・集約化、生産の効率化を図りました。

畜産経営の基盤強化と産地化を
《畜産産地づくり強化対策》

1,106万円

ブロイラー、養豚経営の価格安定対策に努めるとともに、優良繁殖雌牛及び優良馬改良推進と畜産基盤整備で、畜産の経営基盤の強化と産地化に努めました。

- ・ブロイラー価格安定、養豚経営安定

587万円

- ・優良馬改良推進 9万円
- ・繁殖雌牛増頭支援 県外導入 10頭

300万円

- ・繁殖雌牛増頭支援 自家産子保留 21頭

210万円

国土保全と森林機能の充実を
《森林整備事業補助金》

300万円

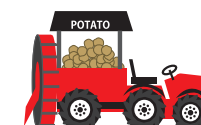
森林の持つ公営的機能を回復させ、国土保全と森林機能の充実を図りました。

- ・人口造林 28.64ha

担い手確保・特徴ある農家実践支援
《園芸振興》 1,334万円

町内各地区で生成された地域計画実現のため、意欲ある担い手を確保し、担い手を核とした特徴ある農家実践に支援を行いました。

- ・花き 170万円
りんどう苗、りんどう新植資材
- ・野菜 204万円
トラクター、中耕ローター、外盛整形版、ラジコン道噴、収穫車
- ・りんご 497万円
スピードスプレーヤ
- ・ホップ 285万円
スピードスプレーヤ
- ・じゃがいも 179万円
ミニハーベスタ



ぎかいの視点

協働で管理する仕組みが必要

稲作農家の担い手へ、農作業で大変な、苗作り、水田畦畔の草刈り等の負担を軽減し、自らの農地集積を後押しする政策が必要。

限られた担い手で地域を維持するには、多様な人の力を借りながら、農地を協働で管理する仕組みが必要ではないか。



くほ としかつ
久保 智克氏

略歴

昭和 59 年岩手大学教育学部を卒業後、久慈市立大川小教諭。その後、指導主事等を経て、伊保内小、盛岡市緑が丘小学校校長等を務め、令和 4 年 3 月に盛岡教育事務所長で退職。



たまだて まこと
玉館 誠氏

略歴

平成 3 年軽米高校を卒業後、自営の林業に従事しながら、軽米中、軽米高校の PTA 会長等を歴任。

新教育長の久保智克氏の任命に関し、前教育長が任期途中での辞職のため、残任期の 8 月 1 日から 10 月 23 日までの任期については、第 17 回臨時会（7 月 30 日開催）で委員の再任に同意し、玉館誠教育委員の任期は、10 月 1 日同意。9 月（第 18 回）定例会では、再任から 4 年間です。

久保新教育長の任命に同意
玉館教育委員の再任も

一般会計補正予算（第 3 号）

2 億 6 6 6 3 万円増

総額を

7 3 億 8 0 4 7 万円に

一般会計補正予算（第 3 号）は、歳入歳出 2 億 6 6 6 3 万円を増額し、総額 73 億 8 0 4 7 万円とするものです。

主な歳入は、前年度繰越金 4 億 2 5 4 5 万円、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 5 4 5 万円を増額し、普通交付税決定により 1 億 2 0 6 万円減、財政調整基金繰入金 6 5 3 8 万円減などです。

主な歳出は、県道二戸軽米線工事に係る伝送路移転業務委託料 1 2 5 6 万円、町債減債基金元本積立 2 億円、公共施設等総合管理基金元本積立 1 3 0 0 万円、調整給付不足額等給付金 5 4 5 万円、副業型地域活性化起業人委託料 1 0 0 万円などです。

副業型地域活性化起業人制度とは
町が三大都市圏などの企業の社員と契約を締結し、月 4 日以上かつ 20 時間以上の勤務と 1 日以上滞り。経費は町が負担するが、国の特別交付税措置の対象となる。町では、データ分析のノウハウを生かして健康福祉分野のサポートを期待している。

《第 17 回臨時会、7 月 30 日開催》

第 17 回臨時会は 7 月 30 日に開催され、久保智克氏の新教育長任命に同意、財産取得 1 件と一般会計補正予算（第 2 号）の議案 2 件を全会一致で可決しました。

財産取得

消防団用高視認
活動服の買入れ

8 4 7 万円



補正予算

一般会計予算を 771 万 8 千円の増額

プレミアム付き
商品券の発行 6 5 0 万円

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した、商工会への補助金

公用車搭載のテレビの
NHK 受信料 1 2 2 万円

カーナビ搭載車 17 台分

令和 6 年度特別会計決算討論

国民健康保険特別会計

歳入 10 億 2,710 万 9,470 円
歳出 10 億 2,466 万 1,279 円

翌年度に繰り越すべき財源は 0 円のため、実質収支は 244 万 8 千円の黒字となりました。

反対 子どもの均等割金額免除の実現を



国民健康保険の加入者は自営業や年金生活者など、収入の少ない低所得者が多いため構造的に財政基盤が脆弱。
国民健康保険の持続的運営には国の財政支出が必要。町は子育て支援として、子どもの均等割金額免除が実現可能である。

後期高齢者医療特別会計

歳入 1 億 2,530 万 4,331 円
歳出 1 億 2,529 万 3,565 円

翌年度に繰り越すべき財源は 0 円のため、実質収支は 1 万 1 千円の黒字となりました。

反対 高齢者の生活を圧迫する重大な要因

後期高齢者医療制度は、国民を年齢で区切り、別枠の医療保険に囲い込んで負担増と差別医療を押し付けるもので、2008 年度の制度導入以来、保険料値上げが続き、高齢者の生活を圧迫する重大な要因となっている。

江刺家静子議員

賛成 若い人たちの負担軽減に理解を



毎年度、医療費増が続いている。医療費の財源は、国等の公費が約 5 割、残りの 4 割が 74 歳未満の現役世代からの支援金。少子高齢化社会が進展し、後期高齢者の所得に応じた負担で、若い人たちの負担軽減を理解する必要がある。

令和 6 年度決算 監査委員の見解「これを要望します」

1. 計画的な施設設備の検討を

事務事業の執行は計画通り進展されており、概ね適正に処理されている。しかし、かるまい文化交流センターの償還のピークを今後迎えるとともに、全国的に起債枠が減少して過疎債の活用が減少されることも懸念され、近い将来に見込まれる施設の整備等を支障なく進めるために、一層の計画的な整備を検討いただきたい。

2. 計画的な職員の育成を

定員適正化計画を大幅に下回っている職員数の中で、一部職員の超過勤務時間が過剰となっている状況が見受けられる。有資格者等や、特定の技能が必要な職種が多数存在するが、特定の職員に過度に依存している職場も見受けられることから、計画的な職員の育成に努めてもらいたい。

3. 職員の待遇改善で人材確保を

各部署とも人材の不足を課題としていることから、これまで以上に人材の確保に努める必要がある。そのためには、民間企業の例を見るまでもなく、職員の待遇改善に努めることを要望する。





一般質問

一般質問とは

- ・定例会に限り、町政全般に関して質問できます
- ・質問項目はあらかじめ事前の通告が必要です
- ・質問者の順番は通告した順番で行われます
- ・時間の制限は 60 分です

町議会では、昨年 12 月定例会から、これまでの一括質問一括答弁方式と、新たに一問一答方式を希望により選択できるよう試行導入しています。質問方式の違いについて紹介します。(制限時間はどちらも 60 分)

- 一括質問一括答弁方式

議員が質問をすべて一括して質問し、その後、町長らがその質問について一括して答弁を行います。質問回数は再々質問までです。
- 一問一答方式

一つの質問事項を質問した後、町長らがその質問事項について答弁を行い、その後に次の項目を質問します。全ての質問を一問一答で行います。質問回数は無制限です。



たなか ゆうすけ
田中 祐典
一問一答 (17 ページ)

・ドローンの活用と訓練状況

・町の交流人口について



かみやま まこと
上山 誠
一括質問一括答弁 (16 ページ)



たむら せつ
田村 せつ
一問一答 (19 ページ)

・高齢者福祉サービスの充実

・教育支援センターの
その後の状況

・県立高校再編計画

・軽米町スポーツ協会の
法人化



ちやや たかし
茶屋 隆
一括質問一括答弁 (18 ページ)



えさしか しずこ
江刺家 静子
一括質問一括答弁 (21 ページ)

・こども園、保育園の給食

・奨学金返還支援制度の創設

・水田活用直接支払
交付金と米不足

・県立高校再編計画案

・町の生涯学習推進



なかむら まさし
中村 正志
一問一答 (20 ページ)

町議会 H P
QR コード▼



掲載されている質問・回答は要約されています。全文は町議会ホームページにて公開しておりますので、ご覧ください。

あなたは傍聴しましたか？

かるまいテレビでも
放送しています！



《 9 月定例会 》 採決結果を紹介

番号等	案件内容	本会議の採決結果
同意案①	教育委員会の教育長の任命に関し同意を求めることについて 〔久保 智克氏＝向高家、任期：令和 7 年 10 月 24 日から令和 10 年 10 月 23 日〕	同意 (全員賛成)
同意案②	教育委員会の委員の任命に関し同意を求めることについて 〔玉舘 誠氏＝屋敷、任期：令和 7 年 10 月 1 日から令和 11 年 9 月 30 日〕	
議案①	職員の育児休業等に関する条例等の一部を改正する条例 〔地方公務員の育児休業等に関する法律の一部が改正されたこと等に伴い、部分休業制度の拡充ほか所要の改正をしようとするもの〕	可決 (全員賛成)
議案②	財産の譲渡に関し議決を求めることについて 〔役場庁舎前に設置している電気自動車（EV）用充電施設の円滑及び安定的運用を図り、住民のサービス向上に資するため、株式会社 e-Mobility power に急速充電器、普通充電器及び EV マークを除く電気自動車（EV）用充電設備を無償譲渡しようとするもの〕	
議案③	令和 6 年度軽米町一般会計歳入歳出決算の認定について 〔歳出決算総額 67 億 467 万 8 千円〕	認定 (全員賛成)
議案④	令和 6 年度軽米町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について 〔歳出決算総額 10 億 2,466 万 1 千円〕	認定 (賛成多数)
議案⑤	令和 6 年度軽米町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について 〔歳出決算総額 997 万 5 千円〕	認定 (全員賛成)
議案⑥	令和 6 年度軽米町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について 〔歳出決算総額 1 億 2,529 万 4 千円〕	認定 (賛成多数)
議案⑦	令和 6 年度軽米町水道事業会計決算の認定について 〔収益的支出 3 億 885 万 750 円、資本的支出 2 億 2,649 万 9,082 円〕	認定 (全員賛成)
議案⑧	令和 6 年度軽米町下水道事業会計決算の認定について 〔収益的支出 1 億 4,435 万 6,368 円、資本的支出 7,495 万 1,345 円〕	
議案⑨	令和 7 年度軽米町一般会計補正予算（第 3 号） 〔2 億 6,663 万 2 千円を増額し、総額 73 億 8,046 万 5 千円〕	可決 (全員賛成)
議案⑩	令和 7 年度軽米町水道事業会計補正予算（第 2 号） 〔収益的支出を 2 万 8 千円増額し、総額 3 億 2,281 万 1 千円〕 〔資本的支出を 18 万 8 千円増額し、総額 3 億 3,208 万 4 千円〕	
議案⑪	令和 7 年度軽米町下水道事業会計補正予算（第 2 号） 〔資本的支出を 1,505 万 9 千円増額し、総額 8,686 万 2 千円〕	
議案⑫	財産の取得に関し議決を求めることについて 〔軽米町立小中学校の児童生徒の通学のため、スクールバスを買入れしようとするもの〕	採択 (全員賛成)
請願陳情⑧	ゆたかな学びの実現・教職員定数改善・教育予算の拡充をはかるための 2026 年度政府予算に係る意見書の提出を求める請願	
発議案①	ゆたかな学びの実現、教職員定数改善と教育予算の拡充に係る意見書 〔学級編制基準の引き下げの検討や学校の働き方改革を促進し、教育の機会均等と教育基準の維持向上をはかるため、地方財源における教育予算の確保を国の責任において行うよう、政府関係機関に意見書を提出するもの〕	可決 (全員賛成)
発議案②	軽米町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例 〔軽米町議会議員の定数を 12 人から 10 人に削減しようとするもの〕	可決 (賛成多数)



ドローンの活用と訓練状況

問 資格取得者の状況は

町長 操縦士資格取得者3名、研修中1名

【問】 ドローンの資格取得者の訓練状況は。

【町長】 ドローンは災害発生時のみならず、農業、観光、広報活動、橋梁点検など、その優れた機動力があることから様々な分野での活用が期待できるため、令和3年度から毎年1名、操縦士資格を取得するため、研修施設へ職員を派遣しており、現在のところ操縦士資格取得者3名、研修中1名の状況。現在、資格取得者を対象とする計画的な訓練は実施していないが、資格取得者5名を目途に、部隊編成、定期的飛行訓練を検討している。

【問】 現在、取得している資格の種類は。

【総務課長】 資格について、民間の資格、国

家の資格があり、民間の資格については各種団体がドローンの基本的な操縦知識、スキル、航空法関係法令の知識取得のため、独自に講習内容を設定して、一定の水準に到達した方に対して技能認定し、資格証書を交付している。国家の資格については、航空法が改正され、ライセンス制度が設定されている。当町の職員については、民間の資格取得者3名、研修中1名という状況である。

【問】 民間の資格での操作が可能なのか。

【総務課長】 100グラム未満のドローンであれば、資格がなくても自由に敷地内の目視の範囲内での操作可能。100グラムを超えるようなドローンに関しては、

航空法に基づいて国土交通大臣の許可を受ける必要があり、申請が必要。また、特定飛行は、飛行の高さ、あるいは夜間の飛行である等の場合に、民間資格を持つていれば操縦は可能。ただし、飛行の申請手続きとということ、国土交通大臣の承認を得る必要がある。

【問】 資格取得後の更新手続きは。

【総務課長】 民間の資格では、3年を基本に更新が必要と考えている。

【問】 ドローン導入後の活動状況は。

【総務課長】 令和6年度災害・防災用として整備したドローンの活用状況については、大きな災害等の発生がなかったため運航は行っていない。空撮用のド



ドローンの活用により、人や重機ではアクセス困難な場所への調査や点検が可能になり、作業の安全性と効率性が向上します

ローンについては、主に観光情報発信のため活用。小型のドローンについては、公共施設の修繕個所の確認等に活用している。

【問】 防災以外の利用は可能か。

【総務課長】 各課と協議して活用できるように検討する。

【問】 小学校・中学校での訓練飛行の実演は可能か。

【総務課長】 原則可能と考えている。安全対策を講じた上で、学校側とも協議を進め、防災訓練の一環として検討していく。



町の交流人口

問 交流人口拡大に対する町の取り組み状況は

町長 観光施設の魅力向上や交通アクセス向上等により引き続き交流人口の増加に努めていく



軽米町総合発展計画とは、町の最上位計画としてまちづくりの指針となるもので、全ての計画や事業の根幹となります

【問】 「軽米町総合発展計画」には交流人口を令和7年に20万人、令和12年に30万人、を目標としているが、昨年度までの交流人口数と軽米町総合発展計画を達成するための取り組み状況は。

【町長】 軽米町総合発展計画における交流人口の定義については、雪谷川ダムフォリストパーク・軽米、ミレットパークなどの町の観光施設のほか、民間施設を含めた観光入込客数に、町民体育館等の施設利用者数を加えた数値としている。令和

6年度約31万8千人と目標は達成している状況だが、これを継続し、更に拡大していきたいと考えている。これまで進めてきた観光イベントの開催のほか、ハートフル・スポーツランド、町民体育館等の利用促進、かるまい文化交流センター宇漢米館での賑わい創出イベントの実施、SNSを活用した情報発信、観光施設の魅力向上や道路環境整備による交通アクセス向上等により、引き続き交流人口の増加に努めていく。

観光資源の充実化

問

観光資源を充実させる取り組みは

町長 ターゲットに合わせたPRとイベント開催により、観光資源の充実に努める

【問】 交流人口を増やすために観光資源を充実させる取り組みについて伺う。

【町長】 現在の取り組み状況については、ラジオ放送、SNS、ハート市内に設置されている大型液晶ビジョンでの電子広告による情報発信、「食フェスタinかるまい」「森林ウォーキングin折爪岳」等での体験・参加型イベントにも力を入れている。見るだけの観光から高付加価値化・体験型の観光へと楽しみ方も変化していることを踏まえ、今後ターゲットに合わせたPR方法とイベント開催により、交流人口の増加につながる観光資源の充実に努める。

町の観光施設の状況については、フォリストパーク、ミルみるハウスの3施設はオープンから30年以経過しており、令和2年度にミルみるハウスは大幅なリニューアルを実施したところだが、それ以外の観光施設についても安心安全に利用いただけるよう修繕工事を行いながら、観光客、町民の皆様にとって魅力ある施設となるような方法を考えていく。



たむら 田村 せい

高齢者福祉サービスの充実

問

高齢者が安心して暮らせる環境作りは

町長

地域包括ケアシステムの強化・推進に取り組んでいく

【健康福祉課長】 介護保険サービスにより、通院や日用品の買い物など、移動や乗降者の介護が可能である。それ以外の目的で外出支

か。

問 外出支援とは、どういうこと

【町長】 福祉タクシー助成券の交付は、対象者は身体障害者手帳一級または、二級の所持者、療育手帳の障害程度Aの所持者、80歳以上の一人暮らしの高齢者となっている。

問 福祉タクシー助成券の交付条件は。

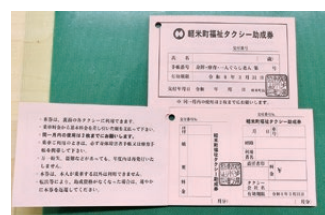
【町長】 福祉タクシー事業については、重度身体障害者等の社会参加の促進を図ることを目的として、申請のあった対象者に福祉タクシー助成券を交付し、利用料金の一部を助成している。

問 福祉タクシー助成券の交付条件は。

【町長】 福祉タクシー事業については、重度身体障害者等の社会参加の促進を図ることを目的として、申請のあった対象者に福祉タクシー助成券を交付し、利用料金の一部を助成している。

問 高齢者が増加していき、安心して暮らせる環境は。

【町長】 町としては、今後も「自助・互助・共助・公助」が連携し、高齢者の生活を支えていくよう包括ケアシステムの強化・推進に取り組んでいく。



福祉タクシー助成券は、生活の質向上、社会参画の促進につながります

教育支援センターの継続

問

教育支援センターの今後の状況は

教育長

生徒の前向きな姿勢がみられ、状況の改善が図られている

問 ターが開設してから一年以上が経過している。その後の状況は。

【教育長】 昨年度3月時点で通所している生徒は、3人である。今年度7月時点で2人である。各小中学校において、保護者を対象に支援センターの趣旨や支援の内容等について情報提供し、教育支援センターの周知を計っている。また、支援センターで行っている支援の充実については、教科の学習ドリルの他に体験学習もできるような支援プログラムも

問 今まで利用していた子どもたちは、学校に戻ることができたのか。

【教育長】 通所していた中学生の一人は高等学校へ進学を果たし、もう一人は、学校で通常の学校生活を送っている。もう一人は、引き続き教育支援センターに通所しているが、昨年5月から今年に入り、月11回に増えた。さらに学校への登校が複数回見られるようになるなど、状況の改善が図られている。



あや 茶屋 たかし

県立高校再編計画

問

軽米高校存続のための今後の取り組みは

教育長

関係団体等が連携して推進することで教育活動の一層の充実を図る



軽米高校存続のため、今後も様々な取り組みが必要です

問 「第3期県立高等学校再編計画（当初案）」の説明に対する現教育長の考えは。

【教育長】 県教育委員会は、今回の高校再編計画を公表した以前に県内の各市町村教育委員会を訪問し、説明を行ったと伺っており、これは高校再編計画の内容説明で、賛同を求めるものではなかったと理解している。

県教育委員会から県立高等学校再編計画（当初案）について、

問 軽米高校存続のため、今後は

説明を受けたが、この再編計画の内容・説明からでは、今後の教育活動の充実と、特色化・魅力化を推進する具体的な取り組みが見通せなかったため、賛成できなかったものと受け止めた。今後の軽米高校の教育活動の充実のために、効果的な支援を強くお願いした。

問 軽米高校存続のため、今後は

本気で町民・行政・学校・議会・それぞれ地域が連携して取り組みが必要があると思うが、今後の取り組みは。

【教育長】 小規模校の良さを生かした習熟度別学習など一人ひとりに寄り添った教育活動の展開とともに、これまで長い実践の中で培ってきた進学コースと就職・専門学校コース等の指導の充実が図

スポーツ協会の法人化

問

今後の進め方は

教育長

情報収集のうえ、調査研究

問 軽米町スポーツ協会の法人化は、どのような経緯で

【教育長】 軽米町スポーツ協会の事務局を担っている軽米町教育委員会事務局から、理事の皆様にご案内をしているが、開催日時の決定や議事の内容等は軽米町スポーツ協会の作成であるため、議事に取り上げられた経緯

問 軽米町スポーツ協会の法人化は、どのような経緯で

【教育長】 軽米町スポーツ協会の事務局を担っている軽米町教育委員会事務局から、理事の皆様にご案内をしているが、開催日時の決定や議事の内容等は軽米町スポーツ協会の作成であるため、議事に取り上げられた経緯

【教育長】 軽米町スポーツ協会の事務局を担っている軽米町教育委員会事務局から、理事の皆様にご案内をしているが、開催日時の決定や議事の内容等は軽米町スポーツ協会の作成であるため、議事に取り上げられた経緯

【教育長】 軽米町スポーツ協会の事務局を担っている軽米町教育委員会事務局から、理事の皆様にご案内をしているが、開催日時の決定や議事の内容等は軽米町スポーツ協会の作成であるため、議事に取り上げられた経緯



こども園、保育園給食

問 保育園給食に主食提供を

町長 主食費無償化を検討



主食の無償化により、少子化対策や、子育て支援としての効果も期待できます

【町長】 国の制度は、主食費・副食費を実費徴収とされている。町では、令和4年度から副食費は無償にしていた。主食の無償化についても検討してまいりたい。

【問】 保育園では3歳児から5歳児は、ご飯（主食）を持参している。ご飯も無償提供できないか。また、アレルギー食の対応、栄養士の配置が必要ではないか。

【町長】 国の制度は、主食費・副食費を実費徴収とされている。町では、令和4年度から副食費は無償にしていた。主食の無償化についても検討してまいりたい。

水田活用直接支払交付金対応

【町長】 政府は転作水田に5年に一度の水張り要件を見直ししたが、農家への対応は伺う。

町長 農家へのお知らせ、問い合わせ等随時、対応している

問 水張り要件見直しに対する農家への対応は

【町長】 政府は転作水田に5年に一度の水張り要件を見直ししたが、農家への対応は伺う。

【町長】 水張り要件は、速やかに水田に戻せるようにしておく狙いがあつたが、一方で農家の多様な経営を制限するという課題もあり、水張りしなくても対象水田としての要件を満たし、自由に活用

できるようなった。交付金の要件等、農家へのお知らせ、戸別問い合わせも随時、対応している。

奨学金返済支援制度を

問 町内に就職した若者に奨学金返還免除の制度を有効な施策の一つと捉えている

【教育長】 町の奨学金制度は、貸付金額や返済など、現在の物価高に対応できているのか。

【町長】 貸与金額は、平成23年度に条例改正したものであり、現在の物価高騰に対応しているのか。

【問】 町内に就職した若者に奨学金返還免除の制度を創設してはどうか。

【教育長】 都市部の学生等の地方定住を促したりすると考えられて

【問】 若者の地方定住促進に係る特別交付税措置制度の活用はしているか。

【教育長】 町の奨学金を含め導入に向けて検討している。



県立高校再編計画

問 軽米高校の1学級減について

教育長 現時点では賛成できかねる



軽米高校への入学希望者を減らさないためにも、受験生や保護者に対して適切な支援が必要です

【問】 県立高校再編計画案が公表され、定員割れの続く地元軽米高校は来年度から1学級とすると報道された。40人定員1学級となった場合、中高一貫校は継続されるのか。

【教育長】 軽米高校の令和8年度学級編成については、県教育委員会が公表した第3期県立高校再編計画で募集定員を1学級減の40人とした。この再編計画と中高一貫教育はそれ

ぞれ独立したものであることから中高一貫校の位置づけは変わらないものと理解している。

【問】 中高一貫校では、隣接市町村からの入学希望者が減るの進学希望者が減るので心配するが。

【教育長】 軽米中学校からの連携による志願者が40人に達した場合、定員を満たすことから、隣接市町村からの入学希望者の受け入れは出来かねる。このことは、これまで実施してきた中高一貫校の連携入試及び一般入試のルールに則って実施されることと理解している。

軽米高校への入試については、受験生やその保護者の不安が解消されるよう、適切に支援していく。

【問】 軽米高校の1学級減について、どのように受け止めるか。

【教育長】 現時点での説明では、賛成できかねる。しかし、軽米高校の8年度からの学級編成は、設置者である岩手県教育委員会の判断によるもの。1学年1学級となった場合、再編計画では、学校の最低規模が1学年2学級と示される一方で、所在地の自治体等と連携し、教育活動の充実が図られている場合には、1学年1学級の普通高校は「地域校」として、学びの機会が保証されることも明示されており、「地域校」として存続していく見通しである。

【問】 今後の町の取り組みは。

【教育長】 軽米高校は

これまで、小規模校の良さを生かし、習熟度別学習を実施するなど、生徒一人ひとりに寄り添った教育活動を展開するとともに、進学コースと就職・専門学校コースを設定し、進路希望を実現させるなど、大きな成果と実績を長年にわたって積み重ねてきている。こうした取り組みが、軽米高校の特色であり、大きな魅力になっているものと認識している。町としては、生徒各自が希望する進路の実現や教育の質の保証が担保されるよう、県教育委員会に対し教員配置に配慮することなどを、今後も強く要望していく。さらに、制服購入や副食給食の提供等、軽米高校の教育環境の構築に引き続き取り組んでいく。

議会の活動報告

～音更町議会との交流深める～

議員 9 名が来町



音更町議会行政視察研修 集合写真

7月22日、23日の2日間、音更町議会議員9名と事務局2名を迎え入れ、表敬訪問並びに視察調査に、軽米町議会議員10名他、町長らが対応しました。歓迎会並びに研修会では軽米町の概要説明のほか、議会の運営等について、上山議会運営委員長が説明を行い、続いて両議会の議員が自己紹介を行いました。その後、議員のなり手不足や、今後の議員活動の在り方などについて活発な意見交換が行われました。



意見交換会の様子

2日目には、かるまい文化交流センター（宇漢米館）の施設見学や、（株）十文字チキンカンパニーバイオマス発電所でのビデオによる施設説明と、見学を実施、最後にミル・みるハウスを訪れ、地元特産品の購入を通じて、参加者同士の交流を深めました。



歓迎のあいさつ



かるまい文化交流センター（宇漢米館）施設見学



議場の見学



（株）十文字チキンカンパニー視察

～令和会による視察研修～

宮城県議会議員 7 名が来町

8月19日、宮城県議会令和会（宮城県議会の同期で構成する議員の会）7名が軽米町を訪れ、視察研修・町内調査を行いました。町の概要や再生可能エネルギー政策について意見交換し、町内施設の見学も行いました。



宮城県議会議員視察研修 集合写真

町政調査会の活動報告

軽米秋まつり

軽米音頭流し踊りに参加

今年も町政調査会は、軽米秋まつり中日の9月14日に開催された、軽米音頭流し踊りに参加しました。参加した9名の議員は、浴衣と半纏姿で、軽米町役場の職員とともに町内を練り歩き、笑顔で踊りながら地域住民と交流し、祭りの賑わいづくりと伝統行事の継承に貢献しました。



軽米音頭流し踊りに9名の議員が参加

今年で 13 年連続

軽米病院環境整備活動

町政調査会は、7月12日、今年で13年連続となる県立軽米病院の環境整備活動を行いました。議員9名のほか、軽米町シルバー人材センターの会員と職員にご協力いただき、花壇の草取りや、駐車場周辺の草刈り、高所作業車を用いた高い樹木の枝切りなどを行い、県立軽米病院の景観美化と安全確保に努めました。



議員9名の他、軽米シルバー人材センター等の多数の方々から参加していただきました。



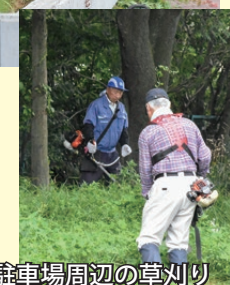
花壇の草取り



植木の剪定作業



高所作業車を使った枝払い



駐車場周辺の草刈り



きれいになった花壇

かるまい町に住んでみて

町民インタビュー Vol. ④

こばやし りょうじ
小林 良二 さん

東京都杉並区出身 (河北・60代)
妻・義母・犬(1匹)の家族



定年を機に軽米へ

☞ 軽米町で暮らすきっかけは？
いつかは妻の実家である軽米町で暮らしたいと考えていました。定年を機に移住することにしました。

住みやすい町

☞ 軽米町の印象は？

自然が多く、不便なところだと思っていました。生活必需品は町内でそろそろし、特に不便さは感じません。また、地震や大雨など自然災害が多発している中、軽米町は比較的少なく住みやすいと思います。

☞ 今、身の回りで関心があることは何ですか？
野菜作り。義母や近所の方々に教えてもらいながら、野菜作りをしています。

かるまいテレビでの情報発信

☞ 軽米町のいいところは？

かるまいテレビ。外出が

むずかしい高齢者や身体の不自由な方なども町内のイベントや情報を知ることができるので、とても良いと思います。

☞ 他の市町村のほうが良いと思うところは？
軽米町内に医療機関が少ないので、その部分に関しては他市町村のほうが良いと思います。

魅力ある町づくりを

☞ 今後、軽米町に望むことは？
少子化が進むなか、町内唯一の高校である軽米高校が来年度から一学級減になると聞いています。軽米高校の存続と、若者が定住したいと思える魅力ある町づくりを望みます。

募集しています

このコーナーの出演者を募集しています。主に町外から軽米町に来られた方で、町への提言、思いなどをお寄せください。自薦・他薦は問いません。議会事務局又はお近くの町議会議員までお問い合わせください。

かるまい
議会だより

発行日 令和7年11月12日発行 (No. 243)
発行者 軽米町議会 議長 松浦 満雄
編集 議会報編集常任委員会
〒028-6302 岩手県九戸郡軽米町大字軽米 10-85
TEL 0195(46)2111 / FAX 0195(46)2335
URL <https://www.town.karumai.iwate.jp/>

議長 志 正
委員長 村 中
委員 田 甲
副委員長 田 上
委員 山 茶
議会報編集常任委員会

軽米町議会だより
りはこちらから

